

◆沿岸漁業担い手活動活力向上事業

沿岸漁業担い手活動活力向上講習会

城間 一仁・紫波 俊介・石川 貴宣

1. 目的

本講習会は、漁業者等の漁業技術や経営管理能力の向上、地域漁獲物の付加価値向上等について、参加者が地域の状況に応じた対応策を十分理解・検討し得るように開催しており、今回は、沖縄大学より講師を迎え、「責任ある漁業と地域の活性化—コモンズとコミュニティーの観点から—」を演題に講演を行った。

2. 日時及び場所

平成16年10月28日(木) 13:30～
沖縄市農民研修センター
平成17年3月3日(木) 14:00～16:00
宮古支庁1階会議室
平成17年3月4日(金) 16:00～18:00
八重山漁協2階

3. 講師

沖縄大学 地域研究所
助教授 家中 茂 氏

4. 参加者

各漁協、各市町村、水産系統団体等

5. 内容

(1) 「責任ある漁業と地域の活性化

—コモンズとコミュニティーの観点から—

消費者、環境、地域に対し社会的責任を持つことにより漁業者の経済的、社会的な地位の向上がはかれられた県内事例として恩納村漁協、沖縄市漁協等の取り組みの紹介があった。

恩納村漁協では、赤土流失問題に対応するため、営漁計画や漁協地域活性化計画を定め計画

後の事業評価を行うことにより海の環境保全管理の担い手としての漁業者の経済的、社会的地位の向上につながった事例。

沖縄市漁協では、パヤオ直売店が担っている地域の役割（雇用の確保等）について事例説明が行われた。

(2) 「県内資源管理の実例と管理効果について」海老沢主任研究員より資源管理のを行うために必要な生物情報（産卵期、生長、成熟サイズと年齢等）、漁業の情報（漁獲量、漁獲体調組成、漁場位置）について説明が行われそれらの情報に基づき資源管理を行っている県内事例が紹介された。

沖縄本島北部では、タマン、電灯潜り漁業によるアカジン・マクブの資源管理。八重山では、クチナギの資源管理が平成10～14年まで行われていた。

6. 所感

家中助教授の講演では、漁協や漁業者が水産物以外の環境や人、歴史等地域資源をうまく活用することにより地域の活性化につながった事例が報告され、これからの漁村の在り方について考えさせられたが、話の内容が少々難しく、参加者が解りづらそうであった。

八重山の資源管理の結果は質疑も多く、活発な意見交換が交わされたが、実施から6年近く経過して結果が報告された為、今後は年単位の資源状況など資源管理と平行して結果報告も進めてもらえばより密接に漁業者が資源管理に関わる事が出来るのではないだろうか。



講習会の様子



講演する家中助教授



講習会終了後、資源管理について
情報提供を行う海老沢主任研究員